

新型コロナウイルスへの対応、対策

いま、わたしたちの世界は大きな変化の時期にきています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大によって、わたしたちの生活や活動はさまざまな変化を求められており、従来のグローバル、またはローカルな経済活動やコミュニケーションをこれまでと同じかたちで継続していくことは不可能となったといえます。

さらに、地球環境に目を向けてみても、環境破壊や地球温暖化などの気候変動はますます加速しており、人類が活動を変えていかなければ、ほどなくして地球は人類が住めない場所になってしまうかもしれません。現在まで、わたしたち人類は成長を求めて活動の領域を広げるとともに、人やモノ、情報を活発に移動させてきました。しかし、人やモノの移動は化石燃料の消費につながり、また、物理的な移動に伴わない情報であっても、データ量の爆発的な増加に伴って、消費電力もますます増えていきます。もちろん、人やモノが国を超えて活発に移動す

るようになったことが、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックを深刻なものにした理由の一つかもしれません。

だからこそわたしたちは、アフターコロナ社会のトレンドをも理解しながら、この社会に変革を起こしていかなければいけないと考えています。

そのトレンドのひとつとして、「リモートワールド」と呼ぶべき分散型社会があります。多くの政府や企業が目指している「2050年のカーボンニュートラルな社会」を実現するうえでも、ソーシャルディスタンスを確保し感染症に備えながら経済活動を活性化するうえでも、Face to Face を超える新たな空間をより充実化させていく必要があります。

これらのアフターコロナ社会のトレンドを理解したうえで、2020年度は、NTT研究所として新たに取り組んだことを紹介します。



三総研の新たな取り組み

三総研では、新型コロナウイルス感染症に対して、取引先および従業員の安全を第一に考え、在宅勤務、出張の自粛やリモート会議の活用、来訪時および外部からの来訪者への検温や消毒の徹底等による感染予防に努めています。



感染症対策啓発デジタルサイネージ



消毒液の設置

3D空間型サウンドメディア「DOOR」の開設

新型コロナウイルス感染拡大以降、テレワークや遠隔授業などwithコロナの新たな生活様式が急速に広がりを見せる一方で、ソーシャルディスタンス確保と、経済活動の活性化を両立させるリモートワールドの実現が求められています。

こうした状況を踏まえて、NTTがめざす世界観や社会的課題への貢献について、驚きや感動とともに共感してもらうことを目的に、3D空間型サウンドメディア「DOOR」を新たに開設しました。

「DOOR」ではNTT R&DなどのNTT関連情報はもちろん、NTT以外の情報通信に関する最新情報等を発信しています。
(<https://door.ntt/>)

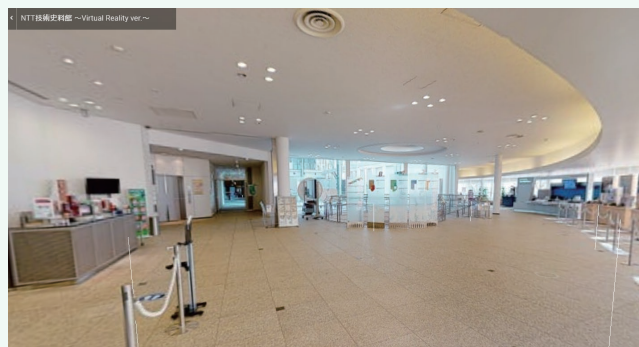


3D空間型サウンドメディア「DOOR」

「NTT技術史料館 ～Virtual Reality ver.～」の開設

NTT技術史料館では、新型コロナウイルス感染症対策として、緊急事態宣言発令・まん延防止等重点措置適用中の一般公開を中止しました。

その代わりにソーシャルディスタンスの確保など感染症対策の徹底のため、パソコンやスマートフォンから、3D仮想空間のリアルなNTT技術史料館を体験いただける「NTT技術史料館 ～Virtual Reality ver.～」を開館しました。世界のどこからでも、どなたでも見学でき、さらには史料館スタッフによる解説動画もご覧いただくことができます。



NTT技術史料館 ～Virtual Reality ver.～

展示会等のオンライン開催

武蔵野研究開発センタでは、2020年11月17～20日の4日間にわたり、オンラインにて「NTT R&Dフォーラム2020 Connect」を開催しました。

このほか、「つくばフォーラム」では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年会場としている筑波研究開発センタ（つくば市）では行わず「つくばフォーラム2020 ONLINE」と題し、10月29～30日の2日間（展示期間は11月30日まで）にわたり「スマートな社会を実現する アクセスネットワーク～IOWN構想を実現する革新技術と事業へ貢献する先端技術～」をテーマに、オンラインにて開催しました。

NTTコミュニケーション科学基礎研究所では、最新の研究成果を多くの方々に知っていただくイベントとして、2020年6月4日正午より「オープンハウス2020」をオンライン開催しました。



つくばフォーラム2020 ONLINE